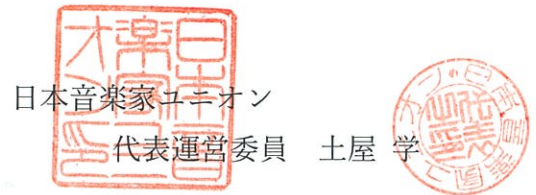


2022年2月21日

文部科学省初等中等教育局 殿  
内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室 殿



## 要 請 書

平素は文化芸術分野における新型コロナウイルス感染症対策にご尽力いただき、御礼申し上げます。

私達は、実演家をはじめ音楽に関わるあらゆる分野の労働者で構成された日本で唯一の全国組織の職能労働組合です。様々な制約がある中、最大限の感染対策を実施し、日々、社会に音楽を届けています。

さて、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課より2022年2月4日付けで発出された事務連絡「オミクロン株に対応した学校における新型コロナウイルス感染症対策の徹底について」（以下、事務連絡）および同日の末松信介文部科学大臣の記者会見上での発言（以下、大臣コメント）につき、我々の考えを述べると共に、以下のように要請いたします。お取り計らいくださいますようお願いいたします。

まず、今次の事務連絡および大臣コメントにより、合唱及び管楽器演奏があたかも新型コロナウイルス感染症の感染源であるかのような印象を社会に与え、教育現場や文化芸術活動に多大な影響と不安をもたらしています。

実演家をはじめ、劇場、ホール、ライブハウス等、文化芸術を支える施設は、2020年2月の政府によるイベント等の自粛要請から2年間にわたり、感染抑止と活動のバランスを探りながら、なんとか文化の灯を守り続けてきました。

教育現場においても多くの指導者が様々な工夫をこらし、ガイドラインを遵守しながら専用マスクの使用や十分な距離をとるなどし、安全に活動を継続してきました。さらには、団体や組織が独自に演奏時の検証や実験を行い、感染抑止のガイドラインを示してきました。

事務連絡をみると地域の感染レベルや「室内で児童生徒が近距離で」といった条件が示されているにもかかわらず、その後の文科大臣による「感染のレベルにとらわれず基本的に控えていただきたい」との発言により、事務連絡の真意が正確に伝わらず、次のような影響が発生しています。

### ①教育機会の喪失

児童生徒にとって、文化芸術に触れる最大の機会は学校教育です。多感な時期に音楽

をはじめとする文化芸術に触れることは、その後の人格形成に必要な不可欠であると同時に、未来の音楽家を育む大切な機会です。

さらに、文化プログラムが行き届かない、あるいは文化施設が少ない地方においては、その影響はさらに顕著なものとなります。

## ②奪われる時間

合唱や合奏は、ひとりでは成り立たないものです。友人たちとひとつの目標に向かい、心と音を合わせる合唱や合奏は、その後の人生を支え得るほど、かけがえのない時間です。

今回の事務連絡、大臣コメントにより多くの部活動等が休止に追い込まれています。学生時代という限りある時間の中で、彼らの青春を奪っている現状を変えるための方策を考えるのは大人の責務です。

古今東西、人は様々な困難を音楽と共に乗り越えてきました。人と人との距離が求められる時代において、心と心をつなぐ音楽は以前にも増して重要な役割を担っています。

そこで、コロナ禍にあっても、人々が安心して文化芸術活動を行えるよう、次のように要請します。

## 記

### 1. 正確な情報伝達に一層の配慮を

事務連絡、大臣コメントにつき、要請の真意が「合唱や演奏そのものに問題があるのではない」ことを文部科学大臣による会見や報道発表等を通じて、公に、そして社会全体へ伝わるよう手段を尽くしてください。

新型コロナウイルス発生当初のように、特定の場所をスケープゴートにするようなことがないように、最大限の配慮を求めます。

### 2. 単に活動を控えるのではなく、いかにすれば実施できるのかという観点から具体的な方策を

この2年間で多くの経験をし、関係施設における実証実験なども数多く示されています。これらの英知を結集し、可能な限り実施できるようにするための指針を示してください。

以上

<発信元・連絡先>

日本音楽家ユニオン

東京都新宿区西新宿 6-12-30 芸能花伝舎 2F

Tel 03-5909-3062 Fax 03-5909-3063

E-mail honbu@muj.or.jp